

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： スポーツ教育センター

	組織目標	達成状況(成果)
教 育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教養教育科目:プロ・スポーツ研究(授業)において新しいスポーツ教育を展開し、その可能性と課題を明確にする。 ・ 教養教育科目:スポーツ実習E,Fおよび学生による各種スポーツ指導をさらに充実させる。 ・ 通年の健康・スポーツ科学(スポーツ講座を含む)を充実させる。 	<p>1. 新たな取り組みであるプロ・スポーツ研究(授業)は、その成果を授業内での報告会はもちろん、プロスポーツクラブ等に還元できるなどの成果を出した。学生評価も良好であり、来年度以降も継続できる内容であった。</p> <p>2. スポーツ実習E,Fは履修者が少なかったが、これは岡山市が政令指定都市となり、市教委および学校との連携再構築が必要となり、時間を要したことで学校現場に入るのに時間がかかったことが起因している。履修生およびスポーツボランティアとして活動した学生は、より充実した活動を行っていた。</p> <p>3. 通年の健康・スポーツ科学は、履修学生が10名弱ではあったが、学生評価も高かった。18回のスポーツ講座には延べ1,103名の参加が得られ、好評であった。</p>
	達成度: ④ 3 2 1	
研 究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学研究費補助金「現代GPにおける双方向スポーツ教育活動がもたらす教育効果」研究をさらに推進する(最終年)。 ・ 熱中症予防対策のための研究に加え、啓発活動(講演・指導・マニュアル作成支援)を行い、熱中症予防対策の充実を図る。 ・ 共同研究「新しいシューズの開発」を継続実施し、販売に結びつける。 	<p>1. 科研費による研究は、学生のスポーツ指導活動が教育効果としてのコミュニケーション能力に与える影響について検討した。学生による主体的なスポーツ指導はコミュニケーション能力を向上させるが、外部からの強制で行う活動はその効果が得られなかった。学生の主体的な活動の重要性が再確認され、様々な支援体制の構築が必要と思われた。予算執行も終わり、報告書も完成している。</p> <p>2. 熱中症予防対策講習会をサークル代表者に3回ずつ、あるいはサークル別に行い、一定の理解と予防対策を行うことができた。また、剣道場、ダンス場でのWBGT計測を通して、教育学部体育館の断熱塗料の有効性を証明した。</p> <p>3. シューズの開発研究は、新しいゴルフシューズの発売が8月にでき、さらに研究を続けている。</p>
	達成度: ④ 3 2 1	
セ ン タ ー 業 務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教養教育科目:健康・スポーツ科学(授業)において、e-ラーニングを活用するため、授業教材づくりを推進すると共に、ワーキンググループによる授業内容の検討を通して新しい「スポーツ演習」の構築をめざす。 ・ スポーツ相談室をさらに充実させる。 ・ スポーツ医科学情報をホームページ等を通じて発信し、スポーツ振興とセンターの広報を充実する。 	<p>1. 新しいスポーツ演習検討WGを中心に、平成25年度開講をめざした「健康・スポーツ演習」の概要が出来上がった。WebClass用教材も掲載でき、e-ラーニングの活用準備は順調に進んでいる。これらは平成23年度のスポーツ実習A(高岡・原担当)、健康・スポーツ科学(鈴木・高岡担当)等で活用する。</p> <p>2. スポーツ相談室はスポーツ障害相談のほか、歯科、フィジカルトレーニング、メンタルトレーニング、栄養と幅広く展開した。</p> <p>3. スポーツ医科学情報として、ホームページにFAQを掲載した。また、行事および報告はホームページに掲載したが、広報活動をさらに充実させる必要があると思われた。現在、学内外でのポスター掲示を行うとともに、学生へのチラシ・パンフレット配布の準備を開始した。</p>
	達成度: ④ 3 2 1	
社 会 貢 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校・高校等において出前講座などを行い、科学的スポーツ活動の普及に貢献する。 ・ 総合型地域スポーツクラブの活動・運営を支援し、地域スポーツの振興に貢献する。 ・ スポーツボランティア養成活動を支援し、地域スポーツの振興と地域の健康づくりに貢献する。 	<p>1. 出前講座および講演講師派遣は11件を行い、スポーツ活動の普及に貢献した。</p> <p>2. 総合型地域スポーツクラブ桃太郎夢クラブ、およびボクササイズ教室は学生と共に継続支援を行うことができた。地域社会貢献活動が学生の教育にも大きく貢献していると思われた。</p> <p>3. スポーツボランティア養成活動は公民館での講演活動に切り替え、来年度は再度検討することとした。</p>
	達成度: 4 ③ 2 1	
<p>【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。</p> <p>e-ラーニングを活用した授業改革の準備を進めているが、スポーツ科学においても文系・理系の専門性が分かれることから多くの議論によって徐々に「健康・スポーツ科学」の考え方を共有することができてきた。今後さらに教養教育「健康・スポーツ科学」のあり方を模索し、考え方を共有しながら、挑戦的な教育改善を進めることによって、より効果的な大学におけるスポーツ教育のあるべき姿を追究していきたい。また、教育・研究として、来年度も熱中症予防対策を徹底する。さらに、来年度は地域社会貢献活動を拡大し、プロスポーツクラブ等との連携を含め、スポーツクリニック等を学生と共にやり、地域貢献とスポーツ教育の両面の成果を上げていけるように努める。</p>		

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。